

北見工業大学学報

第 276 号 (2016 年 7 月号)

目 次

入 試	平成 29 年度入学者選抜要項の公表	3
	平成 29 年度編入学試験の実施	5
研 究 助 成	平成 28 年度共同研究の受入状況	6
	平成 28 年度受託研究の受入状況	7
	平成 28 年度奨学寄附金の受入状況	7
受 賞	本学学生が電子情報通信学会北海道支部学生会 インターネットシンポジウムにて優秀発表賞を受賞	8
諸 報	東北地区進学相談会を開催	9
	自動車工学基礎講座 産学ポスターセッションに出展	10
	BP-職員対抗ビブリオバトルを開催	11
	平成 28 年度工学連携推進型地域 6 次産業人材育成事業開講式	12
	北見市と旧競馬場跡地の賃借契約を締結	13
	父母懇談会 (春季・北見) を開催	14
	学生による地域貢献活動	15
	ブックリユース「本、さしあげます。」を開催	16
	「研究室公開」を実施	17
	図書館公式 Facebook ページを開設	18
	ハラスメント相談員研修を実施	19
	平成 27 年度教育優秀者表彰式を実施	20
	図書館消防訓練を実施	21
「オホーツク地域活力支援包括連携協力に 係る網走開発建設部現場見学会」に参加	22	

	技術セミナー「技術士養成支援講座」の閉講式	23
	第13回 Cat-CVD 研究会を開催	24
	NHK 学生ロボコン本選大会に6年連続出場	25
	学生選書ツアーを実施	26
	第63回北見ぼんちまつり舞踊パレードに参加	27
	北洋銀行ものづくりテクノフェア 2016 ・ 共同研究発掘フェアに出展	28
	全日本ママチャリ7時間耐久レース クラス準優勝および3位入賞	29
	オープンキャンパスを開催	30
情報公開	財務諸表等の開示	31
日誌	6月・7月	32

= 入試 =

平成 29 年度入学者選抜要項の公表

(入 試 課)

平成 29 年度入学者選抜要項が公表されました。概要は以下のとおりです。

○入学定員（募集人員）

学科・コース名		入学定員	募集人員		
			前期日程	後期日程	推薦入試
地球環境工学科	エネルギー総合工学コース	190 人	76 人	66 人	48 人
	環境防災工学コース				
	先端材料物質工学コース				
	地域マネジメント工学コース				
地域未来デザイン工学科	機械知能・生体工学コース	220 人	88 人	77 人	55 人
	情報デザイン・コミュニケーション工学コース				
	社会インフラ工学コース				
	バイオ食品工学コース				
	地域マネジメント工学コース				
工学部合計		410 人	164 人	143 人	103 人

※ 入学後1年半の間は学科で基礎教育等を学習し、2年次後期から本人の志望及び学業成績により学科内のコースを選択します。ただし、推薦入試において地域マネジメント工学コース特別枠を志望して入学した者は、2年次後期から学科内の地域マネジメント工学コースに配属となります。

注① 後期日程の募集人員には、各学科とも帰国子女特別入試の募集人員若干人を含みます。

② 推薦入試の合格者が募集人員に満たない場合は、その不足した人員を後期日程の募集人員に加えて募集します。

○選抜方法等

一般入試

	前期日程	後期日程
選抜方法	大学入試センター試験の成績及び出身学校長から提出された調査書の内容を総合して行う。	大学入試センター試験の成績、本学が行う個別学力検査の成績及び出身学校長から提出された調査書の内容を総合して行う。
出願期間	平成29年1月23日(月)～平成29年2月1日(水)	
試験日	個別試験は課さない	平成 29 年 3 月 12 日(日)
合格発表	平成 29 年 3 月 6 日(月)	平成 29 年 3 月 20 日(月)

推薦入試

選抜方法	学校長より推薦された者について、基礎学力確認試験、面接の結果及び出願書類の内容を総合して行う。
出願期間	平成 28 年 11 月 1 日（火）～ 平成 28 年 11 月 7 日（月）
出願要件	<p>高等学校又は中等教育学校を平成29年3月卒業見込みの者で、次の三つの条件を満たし、かつ志望する学科への能力・適性等について学校長が責任を持って推薦できるもの</p> <p>① 高等学校又は中等教育学校における学習成績・人物ともに優れ、特に数学、理科の成績が優秀な者（地域マネジメント工学コース特別枠への出願者を除く） 地域マネジメント工学コース特別枠への出願については、高等学校又は中等教育学校における学習成績・人物ともに優れ、起業や組織運営、工学を含む学際領域に関心を持つ者</p> <p>② 志望する学科の分野に強い勉学意識と関心を持ち、大学での学習において優れた成果が期待できる者</p> <p>③ 合格した場合は、必ず入学する意思を持つ者</p>
選抜期日	平成 28 年 11 月 25 日（金）
合格発表	平成 28 年 12 月 14 日（水）

帰国子女特別入試

選抜方法	個別学力検査及び大学入試センター試験を免除し、基礎学力確認試験、面接の結果及び出願書類の内容を総合して行う。
出願期間	平成 28 年 11 月 1 日（火）～ 平成 28 年 11 月 7 日（月）
出願要件	略
選抜期日	平成 28 年 11 月 25 日（金）
合格発表	平成 28 年 12 月 14 日（水）

平成 29 年度編入学試験の実施

(入 試 課)

平成 29 年度編入学試験（推薦入試、学力試験入試）が実施され、各学科別の合格者数等は下表のとおりとなりました。

なお、編入学試験（社会人特別入試）については志願者がいなかったため、実施されませんでした。

学科名	推薦入試				学力試験入試			
	募集人員	志願者	受験者	合格者	募集人員	志願者	受験者	合格者
機 械 工 学 科	10	1	1	0	若干人	3	3	1
社会環境工学科		1	1	1		1	1	1
電気電子工学科		0	0	0		1	1	0
情報システム工学科		0	0	0		0	0	0
バイオ環境化学科		0	0	0		0	0	0
マテリアル工学科		0	0	0		0	0	0
合 計		10	2	2		1	5	5

= 研究助成 =

平成28年度共同研究の受入状況

(研究協力課)

平成28年7月29日現在

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民 間 機 関 等
マテリアル工学科	教授	阿部 良夫	エレクトロクロミック材料薄膜の電気化学的・光学的特性向上	株式会社神戸製鋼所技術開発本部 電子技術研究所
電気電子工学科	教授	黒河 賢二	光ファイバへの入力パワー限界に関する検討	日本電信電話株式会社 アクセスサービスシステム研究所
社会環境工学科	准教授	伊藤 陽司	流体包有物による地下流体の熱履歴の調査	アースサイエンス株式会社
社会環境工学科	助教	吉川 泰弘	結氷河川におけるアイスジャム被害に対応する河川管理技術に関する研究	国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所
電気電子工学科	准教授	吉澤 真吾	水中音響通信装置の性能検証	三菱電機特機システム株式会社
社会環境工学科	准教授	井上 真澄	機能性コンクリートに適用する化学混和剤の研究	日産化学工業株式会社 化学品事業部
バイオ環境化学科	助教	小俣 雅嗣	再生可能エネルギーを利用した寒冷地域適応型植物工場に対する、効率的養液使用法の構築	北見市産学官連携推進協議会
機械工学科	教授	羽二生 博之	農地の遠赤外線空撮による暗渠設計と小麦の収穫時期の判定に関する研究	株式会社オービス
社会環境工学科	准教授	駒井 克昭	寒冷地における自然環境保全と維持管理手法に関する研究	株式会社西村組
社会環境工学科	教授	早川 博	常呂川水系水質調査研究	常呂川水系環境保全対策協議会
機械工学科	教授	羽二生 博之	遠赤外線空撮による漁岸壁エプロン等のコンクリート下空洞部検出技術の開発	株式会社豊水設計
社会環境工学科	准教授	井上 真澄	塩害の影響を受ける沿岸域におけるRC構造物での防蝕効果を高める金属溶射技術の活用に関する研究	株式会社豊水設計
電気電子工学科	教授	田村 淳二	電力系統一機器連成解析技術に関する研究	株式会社日立製作所 研究開発グループ テクノロジーイノベーション統括本部
マテリアル工学科	助教	坂上 寛敏	斜里町における環境試料（下水汚泥・放流水）中の微量環境有害成分の定量に関する長期的研究	斜里町
社会環境工学科	准教授	川口 貴之	積雪寒冷環境における水道管の浅層埋設に関する研究	北見市上下水道局
バイオ環境化学科	准教授	小西 正朗	麹菌の液体培養培地成分とプロテアーゼ活性に関する研究	キッコーマン食品株式会社商品開発本部
電気電子工学科	助教	佐藤 勝	太陽電池の新たな市場及び用途拡充に向けた革新的研究	オホーツク新エネルギー開発推進機構
機械工学科	准教授	林田 和宏	バイオディーゼル燃料を用いたディーゼル機関のPM排出特性に関する研究	オホーツク新エネルギー開発推進機構
バイオ環境化学科	准教授	小西 正朗	寒冷地の効率的浄水処理に関する研究	北見市上下水道局
バイオ環境化学科	准教授	岡崎 文保	北見市事業系食品残さリサイクル調査研究	北見市
電気電子工学科	准教授	吉澤 真吾	海底資源探査・海底地盤モニタ用の水中大容量通信に向けた、通信信号で変調を受けたレーザー光の水中の伝搬特性と復調特性を調査するための甲乙丙丁四者の基礎実験に関する研究	独立行政法人海洋研究開発機構/ 三菱電機特機システム株式会社/ 三菱電機株式会社 情報技術総合研究所
社会環境工学科	教授	川村 彰	高速道路における走行快適性に関する共同研究	株式会社高速道路総合技術研究所
マテリアル工学科	教授	南 尚嗣	北見市における下水汚泥及び放流水のモニタリング調査研究	北見市上下水道局
マテリアル工学科	助教	坂上 寛敏	北見市浄化センター臭気成分の定量に関する研究	北見市上下水道局
マテリアル工学科	助教	坂上 寛敏	スクラムミックスセンター臭気成分の定量に関する研究	北見市上下水道局

平成28年度累計60件

平成28年度受託研究の受入状況

(研究協力課)

平成28年7月29日現在

所 属	職 名	研究担当者	研究題目	委託機関	所要経費 円
社会環境工学科	教授	渡邊 康玄	生物多様性を確保するための最適横断面形状と水理量に関する研究	国立大学法人北海道大学	1,000,000

平成28年度累計7件

平成28年度奨学寄附金の受入状況

(研究協力課)

平成28年7月29日現在

所 属	職 名	研究者	寄附目的	寄附者	寄附金額 円
社会環境工学科	教授	渡邊 康玄	平成28年度WEC応用生態研究助成金（初年度分）として（研究テーマ：ダム下流の河道攪乱を目的とした砂州の発達を促す置き土手法の確立）	一般社団法人水源地環境センター	1,000,000
	学長	高橋 信夫	課外活動支援及び就職支援等の事業を推進するため	北見工業大学学生後援会	1,000,000
社会環境工学科	助教	川尻 峻三	「千歳川堤防・遊水地堤を例とした堤体性能保証のための水理・力学的動態調査」に関する研究のため	一般財団法人 北海道河川財団	900,000
社会環境工学科	教授	三上 修一	学術研究に要する経費	東亜グラウト工業株式会社 北海道支店	600,000
電気電気工学科	教授	柴田 浩行	第32回(平成28年度)研究助成「海外派遣」として	公益財団法人 村田学術振興財団	160,000
社会環境工学科	准教授	井上 真澄	奨学研究費	太平洋セメント株式会社	300,000
社会環境工学科	教授	渡邊 康玄	研究のため	一般財団法人 北海道河川財団	1,500,000
社会環境工学科	教授	高橋 清	工学研究のため	株式会社ドーコン	500,000
社会連携推進センター	センター長	鈴木 聡一郎	オホーツク地域の行政・民間団体との共同研究・研究交流、及び技術指導、教育、開発等を推進するため	北見工業大学 社会連携推進センター推進協議会	1,700,000

平成28年度累計23件

= 受賞 =

本学学生が電子情報通信学会北海道支部 学生会インターネットシンポジウムにて優秀発表賞を受賞

(電気電子工学科)

このたび、本学電気電子工学科の4年生の濱田駿さん、石尾紀幸さんが、電子情報通信学会北海道支部より、2015年度電子情報通信学会北海道支部学生会インターネットシンポジウム優秀発表賞を受賞しました。

同学会北海道支部では、学生による学会活動の活性化を促進するために、毎年2月下旬にインターネット上で論文を投稿・発表し、掲示板上で発表者と閲覧者との間で質疑応答や意見交換などを行うインターネットシンポジウムを開催しています。筆頭著者は、道内の大学院・大学・高専または類似の組織に在籍する学生となっていて、2015年度は、33件の投稿がありました。その中で特に優れた論文を発表していて、かつ質疑等積極的に参加していると思われるものを「優秀発表賞」(大学院生、学部生共通)と「発表賞」(学部生)として表彰する

ものです。受賞者数は発表者数の10%以下となっており、2015年度は優秀発表賞2件、発表賞1件でした。

今回受賞しました論文発表「色素増感太陽電池に用いる低温 TiO₂ 膜の間接プラズマ処理による効果」は、学部4年生とその指導教員である武山真弓准教授、佐藤勝助教が共著したものです。この研究は、熱に弱いフレキシブルな基板においても太陽電池を構成できるように、低温プロセスを用いて色素増感太陽電池を作製したものです。一般には、低温プロセスでは、高効率な太陽電池を作製することが難しいのですが、プロセスを工夫することで、低温でも効率を高めることに成功しました。この研究は、2016年度の4年生に引き継がれ、さらなる発展が期待されています。



IEICE インターネットシンポジウム優秀発表賞の表彰状

= 諸報 =

東北地区進学相談会を開催

(入 試 課)

平成 28 年度北見工業大学東北地区進学相談会を 6 月 11 日（土）に八戸で、12 日（日）に盛岡で開催し、合わせて 159 人に参加していただきました。当日は田村淳二副学長からの挨拶、本学概要説明の後、学

科・コースごとの個別相談、保護者・高校教諭向けの説明、模擬授業を行う中で、本学の教育制度について理解を深めていただきました。



概要説明（八戸）



模擬授業（盛岡）



保護者・高校教諭向け説明（八戸）



個別相談（盛岡）

自動車工学基礎講座 産学ポスターセッションに出展

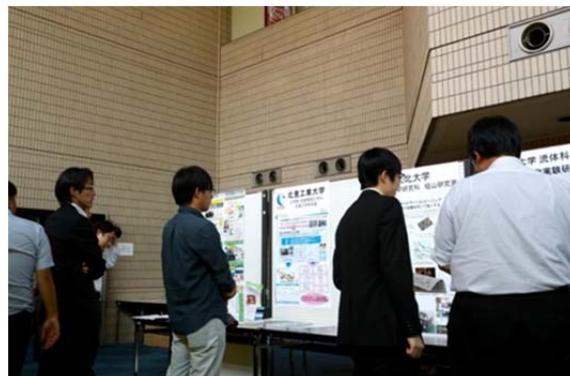
(社会連携推進センター)

6月14日(火)～15日(水)、7月20日(水)～21日(木)の4日間、広島県情報プラザを会場に自動車工学基礎講座「産学ポスターセッション」が開催されました。

4日間を通して全国15大学の研究室から自動車技術に関する研究成果の発表がありました。本学は、技術広報の一環として本ポスターセッションに参加しました。ポスター発表では、社会環境工学科川村彰教授、富山和也助教が取り組む「車両挙動解析による路面プロファイルのリアルタイム計測技術」について紹介しました。前半の日程では、富山助教が出展ブースへの来場者に研究内容について説明を行いました。講座

との併催という事もあり、若手の研究者や学生の来場者が多くみられました。また、広島という自動車産業が盛んな地域での開催でもあることから、関連する自動車事業関係者の参加もあり、本学の紹介技術に多くの興味をいただきました。

秋季大会は10月19日(水)～21日(金)に札幌コンベンションセンターで開催されます。本学も今回の紹介技術について、ポスターセッションへの出展を予定しています。研究の発展と本学のPRに有意義な機会として、ぜひ活用していきたいと考えています。



自動車工学基礎講座 産学ポスターセッション出展ブース

BP-職員対抗ビブリオバトルを開催

(情報図書課)

6月17日(金) 図書館コミュニケーションホールにおいて、BP(ブック・プロジェクト)主催によるBP-職員対抗ビブリオバトルを開催しました。

これまでもビブリオバトルを通じて学生の読書活動推進に努めてきましたが、今回のイベントは情報図書課職員を学生に紹介する目的も兼ねて企画されたものです。

BPと職員からそれぞれ3名が発表する団体戦として行い、どちらの本が読みたくな

ったか参加者の投票を行いました。BPメンバーを含む約25名が参加し、発表者との間で活発に質問や意見が交わされていました。

投票結果は職員側の勝ちでしたが、ビブリオバトルで発表したこと、企画したイベントが無事終えられたことが、BPにとっても良い経験となったようです。今後もBPの活動を支援して、読書に対する学生の関心を高めていきたいと考えています。



イベント開催の様子

平成 28 年度工学連携推進型地域 6 次産業人材育成事業開講式

(社会連携推進センター)

6月22日(水)、社会連携推進センターが中心となり進めている「工学連携推進型地域6次産業人材育成事業(旧・新時代工学的農業クリエーター人材創出プラン)」の開講式を行いました。本事業は、第一次産業産品の工業製品化を地域戦略の柱とし、健康と安心・安全をキーワードにした新規作物の作付けから商品開発・事業化までの知識とスキルを持つ「工学的農業クリエーター」の創出を目指す人材育成プログラムです。本学が大学として取り組んでいる人材育成活動であり、一昨年度からは北見市の協力をいただきながらの運営となっています。

開講式では鈴木聡一郎社会連携推進セン

ター長・機械工学科教授による開講の挨拶に続き、社会連携推進センターの有田敏彦教授による事業説明、教員・スタッフの紹介、受講生による自己紹介・決意表明が行われました。今年度の受講生は、北見市関係の社会人が2人、本学学生が2人の計4人です。社会人受講生は、一昨年度より3年間の計画で行っているタマネギソースや小麦関連商品の開発を継続します。学生受講生は、地元産材を用いた研究に挑戦します。本事業では今後も、本学の工農連携研究推進活動と連動させながら修了生の継続的なフォローアップや人材育成を推進していく予定です。



開講式で挨拶する鈴木センター長



自己紹介をする受講生

北見市と旧競馬場跡地の貸借契約を締結

(社会連携推進センター)

6月23日(木)に北見市と旧競馬場跡地の貸借について正式に契約が締結されました。昨年からは北見市と本契約について調整を進めておりましたが、北見市議会の第1回定例議会にて報告が認められ、このたび契約締結に至りました。地域に生きる大学として、地域が必要とする産業支援、特に第一次産業の工学的支援や、大学シーズの実証、活動状況の広報を実践する場としての活用を主として考えていますが、北見市からの要望を含め社会人人材育成、小中高校生の教育支援の場としても活用し、広く市民にも理解を得られる活動を検討していくこととしています。

旧競馬場跡地はばんえい競馬を約10年前に終えた後、使用されていないこともありライフライン等はもちろんのこと色々な面で使用に際しては復旧しなければならな

いことも多く、平成28年度はおおむね復旧に関する調査や整備を行う予定です。一方で、今回借りた用地は31haありますので、まずはインフラを比較的必要としない研究等事業を行いながら復旧を進めていく予定です。8月からは工農関係の研究を進めるための畑として考えているエリアの調査を開始し、また、橋梁、地質系の実証事業、人材育成も移設含めて進めてもらう予定です。このように広い面積を必要とする場合、例としてはドローンを飛ばすような場合には非常に有効な場所であると思っておりますので、有効活用案をお持ちの皆様は下記の連絡先までご一報ください。

今後、共同研究や競争的資金の実証・実践場所に使用できるよう復旧、整備を急ぎたいと考えておりますので、ご協力よろしくお願いいたします。

連絡先：北見工業大学 社会連携推進センター

TEL0157-26-4163 有田または事務室26-4161まで

Mail : arita@mail.kitami-it.ac.jp

父母懇談会（春季・北見）を開催

（学 務 課）

6月25日（土）全学生の父母を対象とした「父母懇談会（春季）」を実施しました。

当日は、全国から151組210人の父母が参加し、全体説明会において、高橋信夫学長から挨拶の後、富田剛夫学生後援会会長から後援会の活動状況が報告され、田村淳二副学長からは「本学の教育及び就職状況等」について説明された他、様々な情報が提供されました。

その後、各学科・専攻に分かれた個別面談では、各学科の教員が対応し、父母からは修学状況、就職等について質問が出され熱心なやりとりが交わされました。

毎年恒例となっている大学祭に併せた開催のため、参加した父母は研究室公開など他のイベントも見学するなどして好評を博しました。



全体説明会で挨拶する高橋学長



全体説明会の様子

学生による地域貢献活動

(社会連携推進センター)

6月25日(土)に行われた第19回2016環境フェア「くるるん・きたみ」に、本学の学生が参加しました。この催しは、北見市市民環境部が北見駅南多目的広場とその周辺施設で行ったリサイクル啓発イベントです。参加したのは、マネジメント工学コースの3人、そして「オホーツク地域エネルギー環境教育研究会」の活動を行っているバイオ環境化学科岡崎文保准教授の研究室の3人、計6人の学生と岡崎准教授です。当日はあいにくの空模様でしたが、液体窒素を使った「瞬間アイスクリーム作り」の実演にはたくさんの子供たちが集まりました。その他にも、ミニソーラーカーの作成を指導し、地域の子供たちとの交流を図りました。

また7月17日(日)に香りゃんせ公園で

開催された「第20回香りゃんせフェスティバル」にも本学の学生が参加しました。会場の「ソーラーエネルギー実行委員会」ブースでは、学生が子供たちに水陸両用ソーラーカーの製作指導やエネルギー・環境についての説明などを行い、大いに活躍していました。

このような地域イベントへの学生参加は大学の地域貢献の一環としてここ数年より活発になってきており、地域の大学への期待の大きさをうかがうことができます。少子高齢化が進む地域で、学生によるイベントの活性化は運営面でも高く評価されています。地域と共に生きる大学として、より多くの学生の様々なイベントへの参画が期待されています。



地域のイベントで活躍する学生の様子

ブックリユース「本、さしあげます。」を開催

(情報図書課)

6月25日(土)・26日(日)の2日間、大学祭期間中に合わせた、第5回目“ブックリユース「本、さしあげます。」”を開催しました。これは、図書館で不用になった本と本学教職員が読み終えた本をリユース(再利用)する企画です。

平成27年度に重複等で不用になった本を、本学の学生・教職員や、地域の皆様の手にとっていただき、学習や研究に役立ててもらおうと、3,020冊の不用本の他、教職員が読み終えた本や保存期間が切れた雑誌を準備

しました。

おかげさまで、たくさんの方にお寄りいただき、その中で209名の方に1,418冊の本・雑誌が譲渡され、お役に立てることとなりました。また、多くの方から「工学の専門書を無料で貰えてうれしい。」との声をいただき、喜んでいただけて何よりです。来年以降もまた開催し、多くの皆様に喜んでいただける企画にできればと思っています。



来場者が選書する様子

「研究室公開」を実施

(社会連携推進機構)

6月25日(土)～26日(日)に開催された第54回大学祭において「研究室公開」を実施しました。普段、学外の方が目にする機会の少ない本学の研究内容を、やさしく楽しく紹介するものです。悪天候であったにもかかわらず小さなお子様からご年配の方まで、2日間で延べ1,564の方が来場されました。

さらに、26日(日)には「オホーツク地

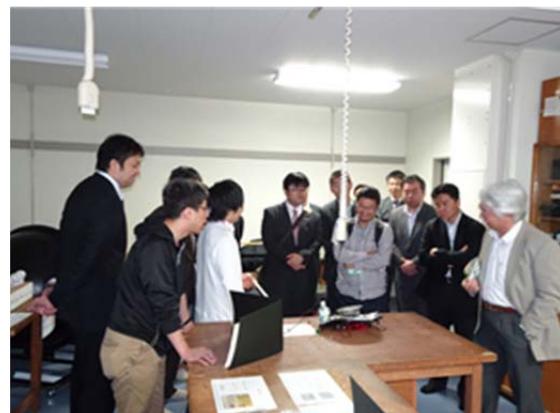
域エネルギー環境教育研究会(OE³)」が開催され、委員であるオホーツク管内の教育機関関係者や小・中学校、高校の教員等も研究室公開を体験し、担当している研究室の学生に熱心に質問をしていました。

来場者の皆さんは、大学施設の見学や研究の一部に触れる貴重な体験を通して、大学を身近に感じることができ満足した様子でした。

公開した研究室のテーマ
QVICで超立体視 それっ
アイロンビーズで雪結晶を作ろう!
100年前の電気通信を体験してみよう
わくわく電気ラボ
光学ワンダーランド
きのこがつくる酵素で色を変える
結晶の花を作ろう
ロボコンのデモンストレーションおよび操縦体験
クリーンなエネルギーを学んで、化学で遊ぼう!!



ロボコンのデモンストレーション



研究室で説明を受けるOE³委員

図書館公式 Facebook ページを開設

(情報図書課)

7月1日（金）、北見工業大学図書館の公式Facebookページを開設しました。

このFacebookページは、図書館や職員に親しみを感じてもらうことを目的として作成しました。また、図書館に限らず、大学のことや北見のことなど、多くの情報を発信していきたいと考えています。

Facebookアカウントを持っていない方も

閲覧が可能です。図書館ホームページからもアクセスできますので、ぜひご覧ください。

教職員をはじめ、図書館利用者や地域の方々に「いいね！」と感じてもらえるよう、図書館では今後も情報の発信に注力していきます。



北見工業大学図書館 公式Facebookページ

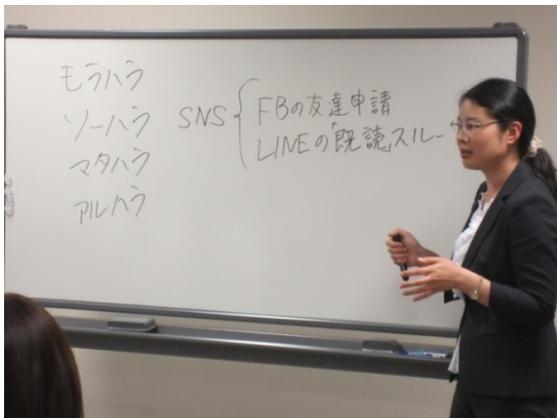
URL : <https://www.facebook.com/Kitami.IT.Library/>

ハラスメント相談員研修を実施

(総務課)

7月4日(月)、ハラスメントに対する知識を深めるとともに、ハラスメントに起因する問題が生じた場合の必要な対応を習得する等、ハラスメント相談員としての資質を向上させることを目的として、ハラスメント相談員研修を実施しました。

外部講師から、相談者自身の経験を踏まえた相談に乗る際の留意点、ハラスメントに関する内容・認識等の変化、大学におけるハラスメントの問題の変遷、加害者対応について講義が行われ、受講者はグループ討議等に積極的に取り組んでいました。



受講時の様子

平成 27 年度教育優秀者表彰式を実施

(学 務 課)

7月5日(火)、平成27年度教育優秀者表彰式を実施し、「ベストティーチング賞」の表彰が行われました。

「ベストティーチング賞」は、平成13年度に創設されたもので、今回は平成27年度に実施した学生による授業評価の結果、授業に対する準備、熱意、指導などが

顕著であるとされた学科等から推薦のあった8人(各学科7人、共通講座1人)が受賞し、このうち2人は4度目、4人は3度目の受賞となりました。

表彰式では、高橋信夫学長から一人ひとりに賞状が授与され、また受賞者に対してお祝いと激励の言葉が述べられました。



高橋学長を中央に平成27年度教育優秀者表彰の各受賞者

図書館消防訓練を実施

(情報図書課)

7月5日(火)に図書館単独で消防訓練を実施しました。

本学図書館は夜間および土日祝日は非常勤職員(大学院生)のみの対応となるため、その想定のもとで訓練を行いました。

当日は訓練を始める頃から日がさしはじめますの天候の中、館長や消防署員が見守るなか、1階閲覧室トイレを火元に

し、非常ベルや防火扉を作動させるなどより実践的な訓練を行いました。

避難完了後は、消防署員の方から講評をいただいた後、水消火器を使用した模擬消火を体験しました。

非常勤職員(大学院生)は毎年半数が変わるため、次年度以降も実態に即した訓練を継続する予定です。



訓練の様子

「オホーツク地域活力支援包括連携協力に係る 網走開発建設部現場見学会」に参加

(研究協力課)

7月8日（金）、国土交通省北海道開発局網走開発建設部が開催したオホーツク地域活力支援包括連携協力に係る見学会に、本学学生及び教職員8人が参加しました。

本見学会は、本学、日本赤十字北海道看護大学、東京農業大学生物産業学部と北海道開発局網走開発建設部の4者で締結している「オホーツク地域活力支援包括連携協定」に基づく交流の一貫で、相互の理解を深める目的で互いの施設を見学する機会を設け、毎年、見学場所を変え実施しています。

今年は北海道開発局網走開発建設部の施

設を見学場所に、3機関の希望者が見学会に参加しました。

普段は一般人が立ち入ることが出来ない旭川紋別自動車道（紋別郡遠軽町瀬戸瀬）の建設現場を見学し、巨大な建設物にもかかわらずミリ単位の路面傾斜をつけて基礎を作成していること等、工事の実態や測量技術の高さについて説明がありました。さらに、高力ボルトを実際に締める体験もあり、参加者からは感嘆の声がありました。

網走開発建設部が担う、人の生活に密着した多様な業務の一端を見ることができ、大変勉強になった見学会でした。



巨大な橋梁建設現場



橋梁上部からの見学

技術セミナー「技術士養成支援講座」の閉講式

(研究協力課)

7月8日(金)、平成28年度技術セミナー「技術士養成支援講座」の閉講式を、札幌(北海道教育大学駅前サテライト)で開催しました。

本講座は、本学出身の技術士が講師の中心となり、技術士資格取得を目指す社会人を対象に、実践的な指導により「技術士」の資格取得を支援するものです。平成19年度から開講し、10回目の開催となる今回は17人が受講しました。

本年4月から7月まで合計4回にわたる本講座は、社会人の受講生が参加しやすいよう夜間に開講しています。

本講座は募集すると即日で定員が充足す

るほど人気の講座で、社会での技術士資格の重要性がうかがえます。閉講式では、川村彰副学長から社会人の学びの重要性や仕事と勉強の両立への労いの挨拶に続き、受講生に対し「受講証書」が授与されました。

受講者は7月17日(日)・18日(月)に実施される筆記試験に向け、最後の迫込みとなっており、10月の筆記試験合格発表、その後の口頭試験まで、仕事との両立を図りながら試験勉強が続くとのこと。この講座で学んだ成果を十二分に発揮し、最終の3月の口頭試験をクリアして、1人でも多くの方が合格することを期待しています。



川村副学長から受講証書授与



講師の説明を真剣に聞き入る受講者

第13回 Cat-CVD 研究会を開催

(電気電子工学科)

7月8日(金)、9日(土)の両日、本学にて第13回 Cat-CVD 研究会が開催されました。

この研究会の初期の頃から実行委員として活躍され、ラジカルを用いた低温での成膜技術を確立した電気電子工学科の武山真弓准教授が実行委員長として、北海道での研究会開催を企画しました。参加者は30数名でしたが、遠くは九州からもご参加いただきました。本学からは、武山准教授、佐藤勝助教、そして招待講演として柳等准

教授が参加されました。研究会では、Cat-CVD(触媒 CVD)に関する最新の動向やラジカルを用いる新プロセス技術などに関する発表から、本学の特色を活かしたカーリングの科学や北見市とソーラーエネルギー活用の取り組み等幅広い研究が紹介され、連日活発な議論が飛び交い、有意義な研究会となりました。また、連日晴天に恵まれ、30℃を超える北見としては暑い日が続きましたが、研究会後の意見交換会も全員出席するなど盛況でした。



Cat-CVD研究会の様子

NHK 学生ロボコン本選大会に 6 年連続出場

(社会連携推進センター)

北見工業大学のロボコンチーム「チーム・オニオン」は今年も厳しい予備選考に合格し、6年連続でのNHK学生ロボコンの本選大会への出場を果たしました。本学を含む24大学が参加し、7月10日(日)に大田区総合体育館で開催された「NHK 学生ロボコン2016」の本選大会は、今夏タイの首都バンコクで開かれるアジア太平洋放送連合(ABU)主催の「ABU アジア・太平洋ロボコン」に出場する日本代表チーム選考会も兼ねています。今年のテーマは「エネルギー」。自走する機能を有してはいけないエコロボットをハイブリットロボットが風力、磁力等で直接接触らずに動かします。競技内容はエコロボットが3つの障害物ゾーンをクリアしたあと、ハイブリットロボットがプロペラを受取り、ポールを登って頂上に

プロペラを取り付けるというものです。

本学から出場した「チーム・オニオン」は、予選Bグループで豊橋技術科学大学、長岡総合科学大学と対戦しましたが、惜しくも予選リーグ敗退となってしまいました。会場ではロボコンメンバーをはじめ、ロボコンチームや同窓会関東支部のOB、高橋信夫学長やチームの指導にあたった羽二生博之教授も加わり、約30人/チームの応援席一杯の体制で声援を送りました。試合後には毎回の恒例となった関東支部会との懇親会も開かれ、「チーム・オニオン」の更なる活躍を期した賑やかな交流が行われました。

残念ながら今年は予選リーグ敗退となってしまいましたが、今回の経験を活かし、来年はさらにパワーアップしたロボコンチームが見られることを期待しています。



競技中の様子



競技中の様子



チーム・オニオンのメンバーと羽二生教授



応援に駆け付けた高橋学長、OB

学生選書ツアーを実施

(情報図書課)

7月11日(月)コーチャンフォー北見店において、平成28年度第1回「学生選書ツアー」を実施しました。

本ツアーは年2回開催しており、学生自らが選書する機会を作ることで、学生のニーズにあった資料を収集し、図書館に対する学生の関心を高めることを目的としています。

今回は「工大生に必要な本」「ためになる本」「皆に読んで欲しい本」のいずれか

のテーマのもと、選書を行いました。

学部学生及び大学院生7名が参加し、合計28冊の本を選びました。選書する参加者は皆真剣な様子で、ツアー終了の直前までどの本にするか悩む姿が印象的でした。

ツアーで選んだ本については、選書理由などを記載したカードと併せて、7月下旬から9月末日まで図書館特設コーナーに展示します。是非図書館にお越しいただき、展示をご覧ください。



選書する学生の様子

第63回北見ぼんちまつり舞踊パレードに参加

(社会連携推進機構)

7月15日(金)北見夏まつりの名物である「北見ぼんちまつり舞踊パレード」に「北見工業大学」チームが参加しました。

今年の舞踊パレードには28団体2,600人余りが参加し、「北見ばやし」に合わせた軽快な踊りで市内の中心商店街を練り歩きました。

学生、留学生、教職員約120人の混成チームを結成し、「北見工大」の名前入りの揃いの浴衣を着て、団体長の柴野純一副学長を先頭に3列の隊を組み長蛇の列となりま

した。

今年は協定校である韓国・慶尚大学校工科大学から短期交流研修の教職員・学生14人も参加し、学生の元気なかけ声や活気に溢れたパレードは、まつりを大いに盛り上げていました。

参加者たちは、来年もぜひ参加したいと楽しい余韻に浸っており、今後も地域との交流を楽しみながら、学生の元気で地域を盛り上げていきます。



団体長として先頭を歩く柴野副学長



北見ばやしで盛り上がる北見工大チーム

北洋銀行ものづくりテクノフェア 2016・ 共同研究発掘フェアに出展

(社会連携推進センター)

7月21日(木) アクセスサッポロを会場に開催された「北洋銀行ものづくりテクノフェア 2016」、同時開催の「共同研究発掘フェア」に出展しました。

本テクノフェアは、毎年開かれている北海道内のものづくり産業を振興するためのイベントで、今年で10回目となります。本学は1回目から共催機関の一つとして出展参加しています。今年も経済産業省北海道経済産業局をはじめ多くの公組織・企業団体の後援を得て開催されました。出展は産業界を中心に過去最多の228社・団体となり、その内大学・高専からの出展は11件でした。また展示技術に興味を持ち参加した来場者数も約4,800人となり、昨年度の来場者数を大きく上回りました。

社会連携推進センターは、北見工業大学で進められている様々な研究を通じた社会貢献の拡大をめざし、研究の成果を広く社会に伝えるための技術広報を行っています。本展示会へもその一環として参加し、今年

度は4月に開設された冬季スポーツ科学研究推進センターについて展示・紹介しました。同会場に設置された商談スペースでは終日多くの商談が展開されました。

同時開催の共同研究発掘フェアは、「北海道を自動走行の実証試験の開発拠点に」をテーマに、道内の研究機関(大学・高専)の研究者が、主に道内の企業向けに、自動走行などの自動車安全技術に関する研究シーズを分かりやすく紹介し、共同研究のきっかけをつくることを目的して開催されました。本学からは電気電子工学科の川村武准教授、機械工学科の星野洋平准教授、楊亮亮特任助教の3人の先生方が研究成果を発表し、参加者が聞き入る様子が見られました。

今回のイベントは道外からの来場者も多く、地域に根差した研究を行う大学という位置付けを広く周知することができました。今後もイベント等への出展を通じ、本学のPRを進めていきたいと考えています。



北見工業大学ブース



共同研究発掘フェアの発表の様子

全日本ママチャリ7時間耐久レース クラス準優勝および3位入賞

(機械工学科)

平成28年7月24日(日)に北海道十勝地方更別村十勝インターナショナルスピードウェイで開催された2016全日本ママチャリ7時間耐久レースに本学大学院機械工学専攻・機械工学科の生体メカトロニクス研究室、エンジンシステム研究室、計算力学研究室の混成3チームが出場し、合計152チームが参加する中、本学の2チームがママチャリクラス(大会TOPクラス)で準優勝と3位に入賞しました。

主力のチーム「北見チャリンコGO!」と

チーム「あんしんしてください こいでますよ!」がそれぞれママチャリクラス2位(総合5位)および同3位(総合6位)に入賞する快挙を達成しました。さらにチーム「北見工大オホーツクブルー」もママチャリクラス11位(総合31位)の好成績を収め、北見工大からの出場チームすべてが大健闘しました。

例年、ご支援とご援助いただいております研究室OBに対しまして、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。



レース中



表彰式(準優勝)



表彰式(3位)

オープンキャンパスを開催

(入 試 課)

7月30日（土）、高校生や保護者等を対象に本学の教育研究内容や学修支援環境を紹介することを目的として、オープンキャンパスを開催し、302人が参加しました。

当日は高橋信夫学長の挨拶、田村淳二副

学長による全体・学科説明の後、参加者は各学科において体験学習等に参加しました。

昼食は在学生に人気のメニューが食堂で参加者全員に提供され、午後からも体験学習や個別相談等が行われました。



田村副学長による全体・学科説明



体験学習



体験学習



自由見学



学食体験



個別相談

= 情報公開 =

財務諸表等の開示

(財 務 課)

国立大学法人法に基づき、平成 28 年 6 月 28 日付けで文部科学大臣の承認を受けた平成 27(第 12 期)事業年度の財務諸表(附属明細書を含む。)及び関係書類を、本学ホームページ (<http://www.kitami-it.ac.jp/about/info-about-kitami/>)に掲載しましたので、お知らせします。

= 日誌 =

6 月

- 1日 教授会、研究科委員会、編入学試験（推薦入試）合格発表、編入学試験（学力試験入試）出願受付（～7日）
- 6日 教育研究評議会、研究推進機構統括会議、大学院博士前期課程入学試験一般入試（推薦入試併願）出願受付（～10日）、オホーツク産学官融合センター事務局会議
- 7日 経営協議会、学長選考会議、役員会、社会連携推進センター運営会議
- 9日 人を対象とする研究倫理委員会
- 11日 東北地区進学相談会（八戸）
- 12日 東北地区進学相談会（盛岡）
- 13日 大学院入学試験出願受付（～23日）
- 14日 自動車工学基礎講座（広島）産学ポスターセッション（前期）（～15日）
- 22日 編入学試験（学力試験入試）、工学連携推進型地域6次産業人材育成事業開講式
- 25日 研究室公開（～26日）、春季父母懇談会、大学祭（～26日）、ブックリユース（～26日）
- 26日 オホーツク地域エネルギー環境教育研究会
- 28日 学術情報機構統括会議
- 29日 大学院博士前期課程入学試験一般入試（推薦入試）面接試験
- 30日 入試企画センター運営会議

7 月

- 1日 安全輸出管理委員会
- 4日 ハラスメント相談員研修、北見工業大学地域コア運営委員会、オホーツク産学官融合センター事務局会議
- 5日 地域連携・国際交流委員会、教務委員会、教育優秀者表彰式、図書館消防訓練
- 6日 社会連携推進センター運営会議
- 10日 NHK学生ロボコン2016
- 11日 学生選書ツアー
- 12日 入学者選抜委員会、学術情報委員会
- 13日 教授会、研究科委員会、大学院博士前期課程入学試験一般入試（推薦入試併願）選考結果通知、編入学試験（学力試験入試）合格発表
- 14日 大韓民国慶尚大学校工科大学短期交流研修（～21日）
- 20日 自動車工学基礎講座（広島）産学ポスターセッション（後期）（～21日）
- 21日 北洋銀行ものづくりテクノフェア2016
- 27日 教育研究評議会
- 30日 オープンキャンパス